

令和4年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

令和4年4月28日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎生徒が確実に学力面で成長するために、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広く育む ◎自己の進路目標を見定め、その達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎「あたり前のことをあたり前にする」態度、特に基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む教育活動の推進 ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取組を充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールミッション、スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領の実施に向け、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の円滑な導入に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進める。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>	<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p> <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じた・観点別評価・希望進路に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭・関係機関との連携・個に応じた・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』</p> <p>部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』</p> <p>労働環境 『超過勤務激減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上・ライトダウンデーの設定』</p>			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
教育課程 学習指導 (教務部)	基礎学力の向上のための研究と実践を行い、多様な進路実現に繋がる指導を実践する。	新教育課程の実施にともない、授業デザインや観点別学習状況評価の観点から、さらなる研修の確保や実施に向けた環境づくりを行うとともに、生徒の学習意欲や学力の向上につながる、指導と評価の一体化にむけた投げかけや体制づくりを進める。				
		洛東高校のグランドデザインを明確にし、教科、分掌からの指導が一体となる体制づくりを進める。				
		教科の枠を越えて、研究授業や公開授業週間など、授業研究や改善に繋がる機会を確保し、授業改善や授業力向上のための一助とする。				
生徒指導 (生徒指導部)	学校生活(学校行事、部活動、ボランティア活動等)を通して、進路実現に向けた規則正しい生活態度の指導(身だしなみや遅刻指導等)を中心にあたり前のことをあたり前にする指導を全教職員で連携を取りながら行う。 褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	遅刻指導者数を全校生徒数の10%未満、考査ごとの皆勤賞受賞者の延べ人数を2500人を目指す。そのための方策として、新たに洛東レビューデイを設置し、考査ごとの皆勤賞受賞者の表彰、生徒への講話、振り返りシートの記入、生徒指導部だよりの発行を行い、学校生活を振り返る機会を作る。 生徒会を中心に、生徒が活躍している場面を取り上げ、全校生徒に示す機会を設けることにより、自己肯定感を高め、褒める機会の充実を図る。				
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめに向かわない・許さない態度・能力を育成するために、人権学習はもとより日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。				
3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。		学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。				
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、志望理由書・小論文対策として、生徒に「書き方講座」の受講、小論文模試の受験を課す中で文章の書き方の基礎を固めさせ、全教職員による個別指導につなげていく。				
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。その道りに関してWEBテスト、動画などを効果的に活用できるよう導く。				
		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。				

進路指導 (進路指導部)		2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に合った指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。			
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。			
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。			
	進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーし、自分で計画的に学習する基礎を固める。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にする取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。			
	進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。				
	ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	生徒の学習習慣を形成し、自ら伸びていく力を育むために、WEBテスト、動画の配信、学習時間の記録などの教材やしぐみを効果的に使っていく。			
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担任・教科担当者と共有し、支援体制を整える。			
	環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組み、ペットボトルキャップリサイクルに取り組む。			
		コロナウイルス感染予防のため、「マスク着用・咳エチケット・三密の回避・手指消毒の徹底・感染症にかからない体作り」等、withコロナの時代に必要となる意識付けを他の教職員と協力して指導し、施設消毒の徹底を行う。			
特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画部)	学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、ホームページや公式SNSなどを通じて広報活動を充実させる。学校と地域・保護者等との相互の信頼形成のために、本校の教育活動について広く情報提供する。	学校ホームページを刷新したり、公式SNSの更新頻度をあげたりして、本校の教育活動や生徒の様子を発信し学校の内外に向けて積極的な広報活動を行う。また、学校公開や個別相談の内容等を見直し、中学生のニーズに合ったものにする。			
		中学校や教育連携校、地域、PTAなどと連携をとり、本校の学校公開や中学校訪問などの取り組みが円滑に実施できるよう信頼形成に努める。			
	1人1台の学習用端末導入を円滑に進め、端末の管理・整備を行い、生徒・教員のICT活用をサポートする。教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。利用規程や使用方法を生徒に周知するとともに情報モラルを身につけさせる。			
	教職員へのICT研修を行いICTのスキルを高めるとともに、情報の取り扱いについて注意喚起する。他分掌と連携し学校全体でICT活用が進むようにする。				
	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	図書館だよりと図書委員会だよりを定期的に発行し、教室掲示またはClassiにより、生徒におすすめ図書などの情報を提示する。また、蔵書検索の便宜を図るため、京都府立図書館の推進するカーリル(蔵書検索サービス)を導入する。			
	図書館と授業との連携状況を紹介して、教科での図書資料活用を促進する。また、一斉読書の充実を図るため、他分掌との連携を高める。				

教育環境整備 (事務部)	安心・安全な施設設備の維持管理を図る。	定期的に施設設備の点検を実施し、危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できよう維持管理に努める。				
	特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効果的に執行する。	一人一台端末の円滑な導入に向け、校内のICT環境の整備に努める。 また、引き続き必要な感染症対策を講じるとともに、各分掌・教科と連携した効果的な予算執行を図る。				
	修学支援	各援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。				
第1学年部	「凡事徹底」をスローガンとし、学校生活における基本的習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者や無断欠席者に対し、生徒指導部や保健部、保護者と連携しながら段階的な指導を行う。 提出物の期限を守ることに付いて、学年団で一致した指導を行う。 一般社会や学校におけるルールを守ることに付いて、生徒指導部と連携して指導を行う。 学校行事や学年集会の実施後に振り返りシートを提出させて、話を聴いて理解する力を身に付けさせる。 言葉遣い、あいさつ、身だしなみなど、場に応じたふるまいをできるよう、学年団で一致した指導を行う。 				
	進路実現に向けて、自学自習の習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> Classiなどの学習アプリを活用して家庭学習の時間を記録させ、家庭学習を促す。 夏期進学セミナーを契機とし、進路実現(四年制大学進学)に向けた自学自習を促す。 各種検定試験を活用し、四年制大学進学希望以外の生徒にも自学自習を促す。 				
第2学年部	洛東高校の代表であるという自覚を持たせ、学校内だけでなく公共の場所でのルールやマナーを守った行動を身につけさせる。進路目標決定と進路実現に向けた学習習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 上級生としての自覚を持たせ、時間、身だしなみ、携帯電話の基本的ルールや正しい言葉遣いが定着するように日常的な声かけを行い、関係分掌や保護者と連携して段階的に継続して指導する。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者と連携をとりながら日々の授業を大切にさせるとともに家庭等での学習習慣を身につけさせ、定期考査に向けて全力で取り組む姿勢を身に付けさせる。 進路目標決定と目標達成に向けて、進路指導部と連携して進路実現に向けた見通しを持たせ、進路に関わる情報収集を主体的に行えるよう指導する。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動、生徒会活動、清掃活動に主体的に取り組むよう促す。 校外学習や研修旅行の取り組みの中で公共の場所での正しい行動の仕方を学び、日々の生活に生かせるように指導する。 				
第3学年部	社会を担う一員になることを展望しながら、学校生活を充実させる。進路目標実現のために必要な行動が取れるよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> 最上級生としての自覚、18歳で成年となることの自覚を持たせながら、時間・身だしなみ・挨拶・携帯電話のルールやマナーについて、日常的な声かけを大切にしながら指導する。指導においては関係分掌や保護者と連携して段階的に、また必要に応じて個別に指導する。 洛東レビューディの取り組み等を通じて振り返りをさせるとともに、しっかりと努力できた生徒をほめる機会を作る。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 教科担当者や情報交換しながら日常の授業を大切にさせるとともに、定期考査などでしっかりと力を発揮させる。また自学自習の時間を確保するよう促す。 ホームルームの時間を利用して、新聞ワークシートや小論文ワークを活用しながら、文章を読んだり書いたりする機会を設ける。また文章を書く際には正しい標記で定められた分量の文章を書ききるように指導する。 進路指導部と連携しながら、それぞれの進路に応じた指導をタイムリーに行い、ともに励まし合える学習集団の育成に努める。 早期の進路内定者に対しては、資格試験や検定試験の受験を促しつつ、卒業後を見据えた学校生活を送ることを求めている。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動、生徒会活動、清掃活動に対して、最高学年としての自覚を持って主体的に取り組むよう促す。また行事等においては、生徒自身が企画・運営できる機会を設けるよう努める。 あらゆる機会を捉えて人権に対する理解と意識を高め、人も自分も大切にできるよう促す。 				

評価の基準 A:十分達成できている、(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校運営協議会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	